



↑風通しのよいところで、直射日光が当たらないよう注意しながら発芽を促し、そろえる。

播種
発芽適温は15〜20℃です。発芽適温を超える夏まぎでは、播種後2日程度直射日光を避け、風通しのよい軒先などで発芽を促します。地床育苗の場合、遮光資材などで温度上昇を防ぎましょう。



われらタキイリーダー
野菜作り応援団!!

キャベツ



キャベツ (育苗) 耕種基準

畝幅 (cm)	60~120
条数 (条)	1~2
株間 (cm)	30~40

キャベツ担当
佐藤 雅史

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

と軟弱徒長の原因となるので、午前中に灌水を済ませ、夕方には培土表面が乾いているようにしましょう。セルトレイは地面から30cm以上浮かせ、排水と通気をよくします。定植の7〜10日前には、苗を外気で慣らし葉質がたくしつかりした苗へと仕上げます。



↑培土の水分量が多いと軟弱徒長の原因となるので水分管理には注意し、茎が太く葉の厚い苗を作る (写真はセルトレイ育苗)。

肥培管理
施肥量は、10…10…10の化成肥料 (チン成分10%) であれば、10㎡当たり2〜5kgを基本に、前作の残留肥料や土壌の肥沃度により調整します。

定植
キャベツは過湿を嫌うため、畝を立て排水を図ります。畝幅120cm前後、株間は35〜40cmの2条植えが基本です。近年の猛暑の影響で活着不良の発生が危惧されるため夏の定植は夕方に行い、活着を促すため定植後すぐに灌水します。また、定植後サンネットなどのトンネ

資材の活用

～遮光資材で軟弱徒長を防止!!～

秋～年内どりの作型では、育苗時の気温が高すぎて、苗の生育不良が問題となることがあります。「タキイ涼感ホワイト」など、適切な遮光資材を用いることで、育苗内を明るく保ちながら温度を下げ、苗を軟弱徒長させずに生育することが可能です。

→
育苗時の気温が高い時は「タキイ涼感ホワイト」などの遮光資材で温度を下げ、軟弱徒長を防止する。(写真は「タキイ涼感ホワイト20」。)



ルをかけるると虫害が減り、減農薬栽培が可能となります。

収穫

キャベツの頭を手で押して、かたくし、まっすぐに収穫適期です。高温期の収穫では、キャベツの品温が高く日もちが悪くなるので、気温の低い朝方に収穫します。低温期の収穫は、凍霜害からの回復を待ち霜が解けてから収穫します。

〈出荷のヒント〉～作型別の施肥の仕方は?～

●年内どり栽培

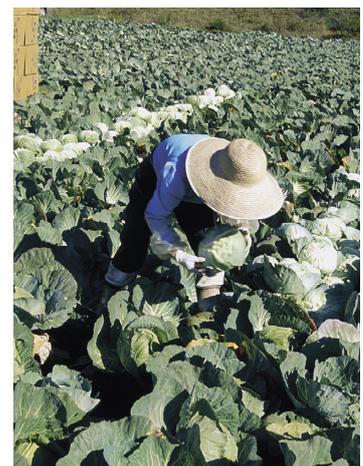
初期生育をスムーズに進めることがポイントです。全施肥量の3分の2を元肥とし、定植後1週間後と2週間後を目安に、残りを追肥として施します。

●冬どり栽培

生育期間が長いので、安定した肥効を保つことが必要です。全施肥量の2分の1を元肥とし、外葉の色が悪くなる前に2〜3回に分けて追肥を施します。

●春どり栽培

温度の上昇と共に生育を促します。全施肥量の2分の1を元肥とし、気温が上昇するところから生育を見ながら速効性の肥料を追肥します。生育後半に余分な肥効が残ると、球腐敗・裂球の原因となるので注意します。



↑品種ごとにあわせた適切な肥培管理で品質の高いキャベツを収穫。



フリーダーズ・アイ
夏・秋の
おすすめ品種

どんな料理にもオールマイティに使えるキャベツには、ビタミンCがとても多く含まれていて、大きめの葉2〜3枚で大人が1日に必要とするビタミンCをカバーできるほどです。また、ビタミンCは美肌効果や疲労回復、風邪予防などにも役立ちます。



直売所出荷を 目指すなら

近年直売所の人気が高まり、直売所数が増加しています。その一方で、直売所同士の競争が激しくなり、競争相手との差別化が必要になります。直売所に来られる方は「鮮度・味」「安全・安心」「旬・季節感」などの付加価値を期待しています。これらに着目し、タキイキャベツでのリレー出荷を提案します。

寒玉系リレー

①「初秋」

秋の早出しでは、新鮮な地元産キャベツの早い出荷が期待されています。「初秋」は耐暑性・早熟性が特にすぐれ、早出しに最適な品種です。寒玉系の中でも比較的やわらかい肉質でさまざまな料理に適します。



↑耐暑・高温結球性にすぐれる夏秋どりの極早生種の「初秋」。

②「おきな」

肥大性と在圃性にすぐれ、大玉収穫が可能です。適作型が広く生理障害にも強いので栽培容易です。

③「彩音」

冬のキャベツは寒さに耐えるため糖分を蓄えます。中でも「彩音」は、特に糖度が高く食味のよい品種です。耐寒性・在圃性・晩抽性にすぐれるので長期収穫が可能です。

④「YR春空」

甘みとみずみずしさを兼ね備え、市場でも高評価を得ています。早熟性・晩抽性など春どりに栽培しやすい特性を併せ持ちます。

⑤「YR天空」

草勢が旺盛なので肥大性にすぐれ、大玉収穫が可能です。晩抽性・耐裂球性があり在圃性にもすぐれます。



↑肥大の勢いがよく長く畑に置ける春どり種「YR天空」。



女性に おすすめ・ 自家菜園に ぴったり



ジューシーでやわらかなおいしさが特長の直売出荷・家庭菜園専用種「コーラス」がおすすめです。丸玉種の甘みと肉厚さ、良質種のみずみずしさを併せ持ちます。玉はやや小さめの食べ切りサイズで、サラダや浅漬けに適しているため、忙しい時でも手軽に野菜を摂取したい女性にはピッタリです。



↑やや小さめの食べ切りサイズが女性にうれしい「コーラス」。サラダや浅漬けにぴったり。



→
キャベツの浅漬け。



↑じっくり加熱する料理で使うと甘みが出ておいしい寒玉キャベツ（写真「スープグラタン」）。

フリーダーズ・アイ

～株間を広げて 大玉出荷を狙う～

キャベツは株間によって、ある程度収穫サイズの調整が可能です。今回紹介した「おきな」「彩音」「YR天空」は株間35cmで一般的な収穫サイズの1.2〜1.5kg程度ですが、株間を40cmに広げると2kg程度まで肥大します。大玉出荷で差別化してみたいかたがたはぜひお試しください。



↑株間を広げることで2kg程度の大玉が収穫できる「彩音」（写真は加工用の大玉栽培）。



↑ 過湿に弱いブロッコリーは排水のよい畑で育てることが上作のポイント(写真「トップギア」)。

土づくりと畝の準備
元肥は化成肥料(8-8-8)で10㎡当たり2・5〜3kgを目安に施します。ブロッコリーは比較的過湿に弱く、排水の悪い畑では根が張れずしっかり生育しません。耕



われらタキイブリーダー 野菜作り応援団!!

ブロッコリー・カリフラワー



ブロッコリー(育苗) 耕種基準
カリフラワー(育苗) 耕種基準

畝幅(cm)	60~135	畝幅(cm)	60~135
条数(条)	1~2	条数(条)	1~2
株間(cm)	40~50	株間(cm)	40~50

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

ブロッコリー・カリフラワー担当
ことう たか ゆき
後藤 亮行



↑ 追肥は出蕾する少し前から始めて、花蕾の肥大を促す。

中耕
ブロッコリーは過湿に弱いので、生育期間中に何度か中耕を行い、根に空気がいきわたる状態を保つことが上作のポイントです。追肥と同時にを行うと肥料の効きもよくなります。特に雨後などは過湿になりやすいので、土が練らなくなつたらできるだけ早く中耕し、畝を乾かすことが重要です。

追肥
出蕾する少し前に追肥をし、花蕾の肥大を促します。前述の割合の化成肥料であれば、株当たり10gを目安に施用します。11〜12月どりでは定植後65〜70日で収穫なので、定植後45〜50日に追肥をするとういでしょう。1〜3月どりでは、12月に1回追肥して肥効を落とさないようにします。さらに1〜2月に、1〜2回追肥して花蕾の肥大を促します。この時期は気温が低く肥料の効きが遅いので、早めの追肥を心掛けます。

土40cm程度と深めに耕し、25cmぐらいの高畝にすることがポイントです。畝幅90cm、条間50cmの2条植えとし、株間はブロッコリーで35〜40cm、カリフラワーで40〜45cmを目安に定植しましょう。

ブリーダーズ・アイ

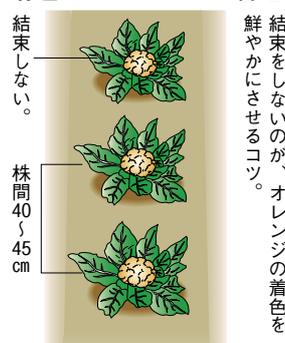
〜「オレンジブーケ」色がきれいで大きな花蕾を収穫するコツ〜

「オレンジブーケ」はしっかりした花蕾を収穫するために、植え付けの際40〜45cmの株間を確保し、極端な密植を避けます。これにより、ひと株ひと株の根張りを十分確保することができ、花蕾には日光が多くあたることで、オレンジ色が濃く発色します。品質確保のために適正な株間を確保しましょう。



↑ 株間40〜45cmとし密植にならないよう心掛ける。

〈図〉有色カリフラワーの管理



〜被覆資材で暑さ・寒さを乗り切る〜

育苗段階の7〜8月は暑さ対策が重要となります。気温が高くなる9〜15時は「タキイ涼感ホワイト」などの遮光ネットを用い温度上昇を抑え、発芽不良・葉先焼けなどを防ぎましょう。

また、1〜3月収穫の厳寒期の栽培においては「ベタロン」など通気性のある保温資材を被覆して温度管理すると、寒さによる傷みを軽減できます。



↑ 夏の暑さ対策には「タキイ涼感ホワイト」で発芽不良・葉先焼けを防ぐ。



↑ 厳寒期には通気性のある「ベタロン」などの保温資材を用いて寒さや傷みを防ぐ(写真はイメージ)。



カーター夏・秋の
おすすめ品種

数多くの野菜の中でも、ビタミン、β-カロテンなどを豊富に含みトップクラスの栄養素を誇るブロッコリー。カリフラワーはブロッコリーに比べるとやや栄養価は落ちますが、加熱による成分の損失はブロッコリーよりも少なくなります。



直売所出荷を 目指すなら

「トップギア」「キャッスル」「メガドーム」はいずれも頂花蕾収穫専用品種で、よく太り重量感のある花蕾が収穫できます。10～11月収穫の「トップギア」、11～12月収穫の「キャッスル」、1～2月収穫の「メガドーム」と使い分け、出荷リレーをするとよいでしょう。



↑花蕾肥大がよくアントシアン着色の少ない「メガドーム」は1～2月の出荷におすすめ。



自家菜園 にぴったり

「ハイツSP」は根の張りがよくしっかりとした株ができるので、10～11月まで安定して収穫できる作りやすい品種です。また、側枝が多く発生するので、12月まで収穫することも可能です。

「グリーンビューティ」は甘みと食感に特長のある、おいしさが持ち味の品種です。特に旬の12月～2月収穫のものは甘みが増し、一層おいしくなります。側枝も収穫できるので、きっちり保温すれば2月ごろまで収穫することが可能です。



↑食味のおいしさで一押し。旬の1～2月にはより甘みが増す「グリーンビューティ」。



女性に おすすめの品種

「オレンジブーケ」はオレンジ色の花蕾ができる華やかで、甘みとうまみに富むおいしい品種です。また、体の免疫を増強する働きのあるカロテンも豊富なので、見て楽しい、食べておいしい、体によいまさに一石三鳥の品種です。



↑華やかなオレンジの花蕾、カロテンたっぷりでヘルシーな「オレンジクイン」。

女性もお手軽

～プランター栽培で 手軽に「グリーンボイス」を楽しむ～

「グリーンボイス」はプランター栽培が可能な品種です。ベランダの一角に「グリーンボイス」を植え付けたプランターを置いて、食べる際にハサミで数本収穫して朝ごはんにも使うもよし、お弁当に詰めるのもよし。追肥を定期的に行えば、いつでも収穫できるので、使いやすい・収穫しやすい・食べやすいと三拍子そろったお手軽なブロッコリーができあがります。



～おいしいだけでなく 形もきれい！ 「グリーンボイス」のグラッセ～

側枝の茎ごとを食べる「グリーンボイス」は調理がしやすいという利点がありますが、それ以上に料理の仕上がりがきれいになります。オススメの調理法はグラッセです。普通のブロッコリーを一口サイズに切っていくと、どうしても出てしまう形の不ぞろい感がなくなり、スッキリした料理になります。



↑「グリーンボイス」は、側枝の茎ごと料理できるので加熱による崩れが少なく、形のきれいなグラッセが作れる。

栽培Q&A

Q 葉縁が茶色くなる 原因は？

A 生理障害や病気などいくつかの原因が考えられますが、ブロッコリーで多いのは黒腐病によるものです。黒腐病は細菌性で病原細菌は、通常土壌中に生存していますが、雨滴によるはね上がりや根の傷口、葉縁部の水孔や傷などから感染します。特に台風など強い風雨にさらされると、株が揺すられて根や葉に傷がつき細菌に感染しやすい状態となります。また、長雨などで過湿となり株が弱ると病害の発生が顕著になります。

排水のよい畑づくりを心掛けるとともに、台風や長雨の後は中耕により畑を早く乾かす工夫、葉面散布や追肥により生育回復を促すことが大切です。



コマツナは暑さや寒さに強く周年栽培が可能で、生育期間が短く、連作にも強いことから、作りやすい野菜として人気があります。また、カルシウムやビタミンを豊富に含み、健康によい野菜というイメージが定着しています。

「新鮮・とれたて」を提供できる直売所の利点を生かし、コマツナで「健康・おいしさ」をアピールした売り場づくりをしていきましょう。



われらタキイブリーダー
野菜作り応援団!!

コマツナ

コマツナ (直まき)
耕種基準

畝幅 (cm)	100~150
条数 (条)	4~5
株間 (cm)	3~5

コマツナ担当
あら い ま こと
新井 真琴



※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。



↑栽培期間の短いコマツナは発芽を一斉にそろえて、栽培を安定させることがポイント。



↑ハウス栽培を行う際には、「タキイホワイト」などの遮光資材を利用して地温・気温の上昇を防ぐ (写真はトマトでの使用例)。

発芽をそろえるためのコツ
短期間で収穫期を迎える軟弱野菜は、一斉発芽が栽培を安定させるポイントです。特に、畑が乾燥しやすい夏どり栽培では、土壌を適湿に保つことが重要です。整地前に乾いているようであれば、十分に灌水を行ったうえで、整地や播種を行います。

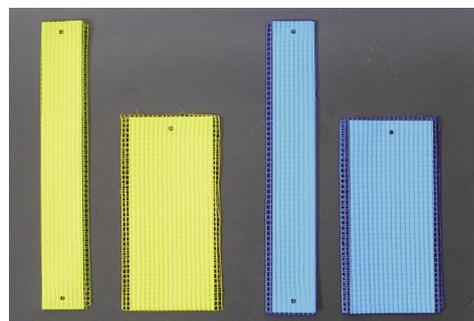
また、ハウス栽培を行う際には、播種前から「タキイホワイト」などの遮光資材を展開することで、地温・気温の上昇を抑えるとともに土壌水分の変化を少なくします。子葉が展開して発芽がそろった後は、遮光資材は外して軟弱徒長を防ぎます。

女性もお手軽

～夏場のコマツナを上手に作るポイント～

ある日突然、「コマツナの葉っぱに穴が開いている！」と驚いた経験はありませんか？春夏のコマツナ栽培は、ムシとの戦いです。お手軽なムシの食害対策として、防虫ネットをトンネル掛けするとよいでしょう。そのほかにも、「トルシー」などの粘着トラップを仕掛けておくと、黄色にはコナジラミ、青色にはアザミウマの捕虫効果があります。

また、夏どりは生長が早い時期であるため、葉柄が細くなる傾向にあります。株間5cm、条間15cmを目安に、タネまきの間隔を少し広めにとることで、葉柄が太くがっちりした株に仕上がります。収穫の3～4日前には掛けていた防虫ネットを外すことで、生育がじっくりし、株張りよく葉色の濃い株になります。

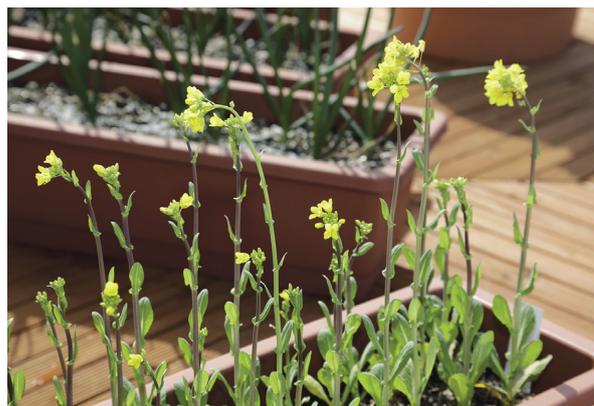


↑害虫捕獲粘着紙「トルシー」。黄色はコナジラミ、青色はアザミウマの捕虫効果がある。

栽培Q&A

Q コマツナが春先にトウ立ちしてしまいました。トウ立ちを防ぐには？

A コマツナは、品種により感応する温度や期間は異なりますが、播種後、低温に一定期間遭遇することにより、花芽が形成され、温度の上昇とともにトウ立ちしてきます。そこで、冬にタネをまいた後は、ビニールトンネルで保温して低温を和らげ生育を促進させます。また、トウが上がってくる前に収穫することを心掛けてください。



→
コマツナの花。トウ立ちすると花が咲いてくる。



フルーダー夏・秋の
おすすめ品種

コマツナの栄養分はホウレンソウと似ており、比較すると鉄分はやや少ないですが、カルシウムは約5倍も含んでいて骨粗しょう症の予防に有効です。ビタミンA・Cも豊富で、眼に栄養を与え、皮膚や粘膜を丈夫にする効果があります。



直売所出荷を 目指すなら

●春～夏どりのローテーション

春から夏にかけては、病気にかかりやすい作型になります。特に、梅雨時期には葉に白い病斑ができる白さび病が、高温期には葉が黄色くなり枯れる萎黄病が発生しやすくなります。「菜々美」「菜々音」は、これらの病害に耐病性を持ち、露地でも安心して栽培できます。

「菜々美」は春から秋まで幅広く栽培が可能な品種で、葉柄が太くがっちり生育するため、収量性が高いのが特長です。また、葉が大きいので、ポリフィルム袋に入れるとボリューム感が出ます。

夏まきでは、高温期でもじっくり生育し耐暑性にすぐれる「菜々音」をおすすめします。葉の色が濃く肉厚で、太軸に仕上がるため、売り場で目立つきれいな荷姿になります。

●秋～冬どりのローテーション

秋どりの「菜々美」に続いて、冬どりでは「楽天」がおすすめです。「楽天」は寒さに強く冬場でも安定して生育し、やわらかく仕上がるので、コマツナ本来の風味と歯切れが楽しめる品種です。冬の寒さに耐えながら、甘みが増しておいしく育つので、食味をアピールして売り場に陳列してみたいかがでしょうか。**下表**を参考に周年出荷を目指してください。

播種から収穫までの日数の目安

季節	栽培日数
春まき	35～40日
夏まき	25～30日
秋まき	30～40日
冬まき	65～100日



自家菜園 にぴったり

コマツナは、狭いスペースでも栽培が可能で作りやすく、自家菜園にぴったりのお手軽な作物です。四季を問わず、一年中播種できる品種として「夏楽天」がおすすめです。

こまめに小さい面積に播種することで、途切れず収穫ができ長期間楽しむことができます。また、冬どりでは、ある程度広い面積に播種した後、被覆資材をかけるタイミングを数回に分けると収穫期をずらすことができ、長期間の収穫が可能です。



←小スペースでも作りやすい「夏楽天」は自家菜園にぴったり。

春～夏どりのローテーション

夏どり



「菜々音」

←耐暑性が高く夏まきにおすすめ。色濃く肉厚な葉で荷姿が美しいのも特長。

春どり

秋どり



「菜々美」

←春～秋と幅広く栽培でき、葉が大きくポリフィルム袋に入れるとボリューム感が出てほかと差別化できる。

秋～冬どりのローテーション

冬どり



「楽天」

←寒さで甘みが増し食味がアップできる。

〈女性の味方〉～コマツナの栄養素～

コマツナは栄養満点で、ビタミンには美肌効果、鉄分は貧血対策、カルシウムは骨粗しょう症に予防効果があるといわれ、女性にはうってつけの食材です。また、ホウレンソウと違ってアクが少ないため、下ゆでの必要がなく、生で食べることもできます。そこで、コマツナの栄養素をそのままとれる、ベジスムージーはいかがでしょうか。タキイのホームページ内には、コマツナをはじめとした、ベジスムージーの特設サイトがありますので、ぜひ参考にしてください。

コマツナほか、いろいろな野菜のスムージーレシピはこちらから！

http://www.takii.co.jp/vege_smoothie/index.html

コマツナスムージー
材料
(2人分)



コマツナ2株



バナナ1本



キウイ1個

▽貧血防止・美肌効果・骨粗しょう症の予防など、女性にうれしい栄養がたっぷりのコマツナスムージー。



われらタキイブリーダー
野菜作り応援団!!

中国野菜

チンゲンサイ
耕種基準

畝幅 (cm)	100~120
条数 (条)	3~4
株間 (cm)	10~20



※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

栽培クローズアップ

軟弱野菜は「発芽半作」

中国野菜は軟弱野菜の仲間で、これらは栽培期間が短いことが特徴です。そのため最も重要なポイントは「発芽をそろえる」こととなります。よく野菜の栽培で「苗半作」といわれることがあります。軟弱野菜にとっては、発芽さえそろえばその作は半分成功したといっても過言ではありません。



↑ 生育期間の短い軟弱野菜は、発芽をそろえることが栽培成功の重要ポイント (写真: タアサイの発芽)。



← 土づくりにおいては、有機質などを施し施肥設計をしっかり行いたい (写真: 生育途中のツルムラサキ畑)。



← 有効微生物 (ダルマ菌) を含んだ「バイオダルマ」は、堆肥の効果も併せもつ使いやすい有機物資材。



↑ 「サンサンネット」を使用したトンネルで害虫の食害を防ぎ減農薬を図る (写真はイメージ)。

発芽をそろえるには、初期の水分管理が大切です。発芽に過湿は大敵ですが、乾燥も厳禁で、適湿を保つことが重要となります。そのためには覆土の上からもみ殻堆肥などをふり、さらに寒冷紗などで被覆することによって畝表面が乾くのを防ぐとよいでしょう。

施肥は元肥主体で
生育期間が短いため、施肥設計は元肥が主体となります。また、使用する肥料も比較的速効性のものを主体にした方が、初期からの生育を進められるのでよいでしょう。

ただし、土づくりは施肥設計だけでなく、発芽の良否も左右するので、その意味でも堆肥はぜひ使用したいものです。牛ふんや鶏ふん、もみ殻堆肥などさまざまな種類があるので、入手が容易で利用しやすいものを活用しましょう。有効微生物

生物 (ダルマ菌) が豊富に含まれ、しかも畑への投入が簡単なタキイの「バイオダルマ」などもおすすめです。

減農薬への工夫

夏秋まきは気候的には最も作りやすい時期ですが、病害虫が多いことが大きな問題となります。特に「安全・安心」をキーワードにしたい直売所向け栽培としては、農薬の使用は最小限に控えたいものです。

そこで効果的なのが、発芽がそろった直後から「サンサンネット」などによるトンネルを設置する方法です。発芽までは寒冷紗などの被覆で発芽をそろえますが、双葉が展開してからはトンネルで覆うことで、害虫の侵入を防ぎます。また同時に、虫の食害からくる病気も減らすことができるので、殺虫剤の使用を軽減できます。トンネルの上から灌水や必要な農薬散布はできるので、収穫までトンネルの開閉管理は不要で、手間もかかりません。

〈移植栽培〉

直まき栽培は根張りがよく生育が早いので栽培しやすいですが、幼苗期に虫害や乾燥によって生育ムラが出やすくなるという難点もあります。

その場合は移植栽培がおすすめです。育苗は「サンサンネット」などのトンネルを利用しての雨よけ栽培とし、以下の点に注意します。

① 土壌水分

午前中にたっぷりと灌水を行い、夕方には少し乾く程度にする。

② 光と風通し

日光がよく当たる風通しのよい場所を選ぶ。トレイは地面から30cm以上空間をとり、扇風機などで通風を図る。

③ 気温

極高温時には日中は寒冷紗をかけ気温を下げる。ただし朝夕は寒冷紗を外し、苗に十分光をあてる。

④ 肥料

育苗後半の肥料が切れる前に液肥を与え、病害や活着不良を防ぐ。



↑ 定植苗は本葉3~4枚程度の若苗とする (写真: ツルムラサキのプランター栽培)。



↑レタスの発芽適温は20℃前後。夏に播種する品種は温度管理に十分注意する。

発芽
レタスの種子は25℃以上の高温になると休眠して、発芽率が極端に低くなります。「サウザー」や「ロマリア」など、



われらタキイブリーダー
野菜作り応援団!!

レタス



レタス(育苗)
耕種基準

畝幅(cm)	45~180
条数(条)	1~4
株間(cm)	27~35

リーフレタス(育苗)
耕種基準

畝幅(cm)	45~180
条数(条)	1~4
株間(cm)	25~32

レタス担当
おかだ ゆうへい
岡田 有平

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

肥培管理
チソン成分で10㎡当たり、10月どり100〜120g、11〜12月どり120〜150g、1〜3月どり250〜300g、4〜6月どり150g程度を目安に、時期によって増減するのがポイントです。また、マルチを使用しない場合はこれらより2割程度の増肥が必要です。



↑マルチには乾燥・加湿、雑草や病害発生を抑える効果があるので、有効に活用する。

夏に播種する品種は特に注意が必要です。気温を下げることは難しいので、直射日光を避けてトレイの温度上昇を防ぎます。播種後2日程度は軒下などの風通しのよい日陰に置いてください。
マルチの利用
マルチを利用することで土壌の乾燥や過湿を防ぎ、また雑草や病害の発生を抑える効果もあるので、レタス栽培にとってマルチの利用は不可欠です。

ブリーダーズ・アイ

～安定した大玉収穫を狙う～

レタスの冬どり栽培では、ベタかけやトンネルなどを利用した温度管理が必須です。「フルバック」は従来の冬どり品種と比べ、草勢が強く肥大にもすぐれる品種なので、冬場の温度管理は、今までの品種よりも低温気味にすることが上作のポイントです。具体的に、被覆開始時期を遅くする、トンネルの裾を大きめに開ける、1月どりはベタかけのみにするなどです。こうすることで形状が安定した大玉を収穫することができます。



↑「フルバック」は従来の冬どり品種と比べ、低温気味に管理することで上作につながる。

連続的に収穫するには
レタス類は生育が早く、収穫適期が短いことが特徴です。連続的に出荷したい場合は、収穫適期を上手に調整することがポイントとなります。秋〜年内どりで

栽培Q&A

Q 残暑が厳しく、定植後に苗がしおれてしまいます。

A 夏から初秋にかけての定植で黒マルチを使うと、地際部が異常な高温となり、レタスの苗が焼けてしまうことがあります。対策としては、

①白マルチを使う

②定植した苗の周辺のマルチを土で覆う

などの対策によって地温の上昇を防ぎます。また、外気が当たる屋外で育苗し、ガッチリとした健全な苗を作ることも重要です。温度が低い時期になれば、地温を確保して生育を促すため、黒マルチでの栽培に切り替えます。



↑温度が高い時には白マルチで地温上昇を防ぐ。白と黒のマルチをうまく使い分けて、健全で丈夫な苗を作る。

は、定植直後の生育が旺盛なので、定植を2〜3日おきにずらすとよいでしょう。冬どりや春どりで定植直後の生育がじっくりしているため、定植は1週間〜10日程度の間隔をおきます。



フルタ夏秋の
おすすめ品種

レタスは成分の約95%が水分ですが、ビタミンやミネラルなど体に必要な栄養素をバランスよく含んでいる淡色野菜です。生で食べることが多い野菜ですが、油と一緒に調理することによってカロテンやビタミンEの吸収率がよくなります。



直売所出荷を 目指すなら

レタスは温度や肥料などの環境にとても敏感で、栽培する地域や時期に応じていくつもの品種を細かく使い分ける必要があります。「サウザー」「スターレイ」「フルバック」のこれら3品種は栽培適期幅が広く、高温期から低温期まで切れ目なく良質の玉レタスが出荷できるのでリー出荷にチャレンジしてみましょう。

「サウザー」は高温期での結球性にすぐれ、一般地の秋どりや晩春どり、冷涼地の初夏～夏秋どりに適します。「スターレイ」は適温期での肥大性や結球性にすぐれ、中間・暖地の晩秋～年内どりと春どり、冷涼地の春～初夏どりに適します。「フルバック」は低温期の結球性がよく、肥大性はほかの冬どり品種と比べて一段とすぐれ、暖地の冬どりに幅広く適します (第1表)。



自家菜園 にぴったり

玉レタスは自家菜園ではやや栽培が難しい品目です。そこで、レタスの栽培が初めてという方には、栽培容易なロメインレタスがおすすめで。カットしやすい形状や加熱調理にも向いているので、さまざまなメニューに挑戦してみてください。

「ロマリア」は高温期～適温期に幅広く栽培できます。立性で風通しのよい草姿で葉がしっかりしているため、病気の発生が少ない品種です。結球性がすぐれるので、内部が軟白されたおいしいロメインレタスを収穫できます。

冬どりで「ロマリア」の肥大が不足する場合は「コスレタス」を使うと、2品種で長期間にわたってロメインレタスを収穫することができます。これまで玉レタスやリーフレタスを栽培していた方も、ロメインレタスにチャレンジしてみたいでしょうか？



女性に おすすめの品種

サラダ菜と玉レタスの中間タイプで、食味にすぐれるのがミニレタスの「マノア」です。株張りが小さいので、条間・株間共に15cm程度の密植が可能で、プランターや小さいポットでも栽培できます。葉は小さく、お弁当の一品としても活躍してくれるでしょう。収穫までの生育期間はほかのレタス類よりも短く、適温下では定植後30日程度で収穫サイズになります。



↑食味にすぐれるミニレタス「マノア」は、プランターやポットで手軽に栽培できるので女性にもおすすめ。

(第1表) レタス品種 収穫期の目安

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地					■	■	■	■	■	■		
中間地			■	■	■	■				■	■	■
暖地	■	■	■	■	■						■	■

■ サウザー ■ スターレイ ■ フルバック

資材の活用 ～台風対策に サンサンネットを活用～

レタス類は茎葉がやわらかいので、台風による雨風のダメージをほかの品目よりも大きく受けてしまいがちです。その対策としておすすめなのが、「サンサンネット」によるベタがけです。強風下でもレタスが揺れにくくなり、被害を軽減できます。たるみがないようにピンと張ることがポイントです。



↑茎葉のやわらかいレタスは台風などによる雨風のダメージを受けやすいので、サンサンネットなどのベタがけで台風対策をしっかりとすること。(写真は「サンサンネット」のベタがけ。コマツナでの使用例。)



↑草姿が立性の「ロマリア」は風通しがよく病気の発生が少ないのでレタス栽培の初心者にも作りやすい。

葉菜
レタス

われらタキイブリーダー
野菜作り応援団!!

ダイコン



ダイコン耕種基準

畝幅 (cm)	120
条数 (条)	2
株間 (cm)	20~30

二十日ダイコン耕種基準

畝幅 (cm)	90
条数 (条)	4
株間 (cm)	3~5

ダイコン担当
辻田 卓

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

ダイコンは秋〜冬にかけて、欠かすことのできない野菜のひとつです。根菜類は栽培が難しいと思われがちですが、品種選びと栽培ポイントさえおさえれば、誰でも簡単に栽培することができますので、ぜひ直売出荷のラインアップに加えてみてください。

土づくりと畝の準備



ダイコンの栽培には、排水性と保水性のよい土づくりが欠かせません。播種する1カ月前に完熟堆肥を10㎡当たり20〜30kg程度、pHの調整に苦土石灰を10㎡当たり0.8〜1.5kg施用し、なじませ

ます。生育初期から後半まで肥効が続くように、元肥を中心に化成肥料を成分量で10㎡当たり100〜150gとします。夏まきの場合は生育が旺盛になるので、元肥を1〜2割減するとともに、根部褐変症を防ぐためにホウ素を含む微量要素肥料を10㎡当たり40〜60g必ず施用してください。秋まきの場合は生育中期以降、低温で生育緩慢な時は追肥を50〜60g施用します。畝の高さの目安は排水のよい畑で約10cm、悪い畑では20cm以上の高畝とします。



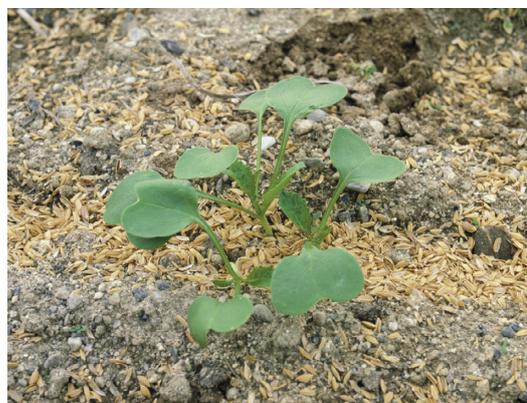
↑ダイコン栽培には排水・保水性のよい土が欠かせない。排水の悪い圃場の場合は畝を高くして管理する。

タネまきと被覆資材

タネまきは条間40cm、株間25cmとし、均一の深さで(1.5〜2cm)1穴当たり3〜4粒まきにします。播種後は発芽不良にならないよう、こまめに灌水を行います。播種後、乾燥を防ぐために播種



↑不織布などをベタがけすることにより、寒さによる傷みを軽減できる。



↑乾燥を防ぐため、播種溝にもみ殻をひくのも効果的。

溝にもみ殻をひいたり、白寒冷紗や「タキイホワイト」などの被覆も効果的です。また、秋冬どりの厳寒期には「テクテク」などの不織布をベタがけすることで、保温や保湿、寒さや霜などの被害を軽減することができます。

〈出荷のヒント〉～秋冬期はカラフルなダイコンで、食卓の彩りを提案～

主にダイコンを出荷する秋冬期は、直売所にトマトなどの果菜類が減ってくるので料理に彩りを加える野菜が求められます。そこで「**紅心大根**」や「**青長大根**」「**コミット**」などを加えることで、お客様の目を引き、ほかとは差別化した売り場づくりが可能となります。



→ 少し変わった色鮮やかな「紅心大根」や「青長大根」でアピール! 差別化をねらう。



↑「紅心大根のごはん」。イチヨウ切りにした「紅心大根」に、塩、本料理酒を加え、だしを加えてから炊き上げ、しらすを散らす。



フルーダー夏・秋の
おすすめ品種

ダイコン好きの医者いらずということわざがあるように、ダイコンは葉から根元まで栄養がぎっしりで丸ごと使えます。根にはアミラーゼというでんぷん分解酵素が多く含まれ、でんぷんの消化を促進し胃もたれや胃酸過多などに効果的です。



直売所出荷を 目指すなら

●冷涼地向けローテーション

マルチを用いれば5月上中旬まきの「つや風」で初夏どりの出荷が可能です。トウ立ちが遅く、低温での根の肥大にすぐれます。7月まきの「夏の翼」は、耐暑性があり、病気や生理障害にも強く高温期の栽培に適した品種です。7月下旬～8月中旬まきの「秋の翼」は、スッキリした草姿で栽培しやすく、根のそろいが抜群です。8月まきでは「耐病総太り」がおすすめで、寒さに強くス入りも遅いので作りやすい品種です。



↑根のそろいが抜群の「秋の翼」は、スッキリとした草姿で栽培がしやすい。

●中間・暖地向けローテーション

8月中旬～9月上旬まきの「夏の翼」から始まり、9月上中旬まきの「秋の翼」、9月中下旬まきの「耐病総太り」となります。暖地では9月下旬～10月上旬まきの「千都」を使えばさらに出荷を伸ばせます。「千都」は寒さに強く、低温でも根長がしっかり伸び、食味もよい品種です。



自家菜園 にぴったり

発売以来ベストセラーの「耐病総太り」がぴったりです。ほかの品種には真似できない甘みとうまさをもち、肉質は緻密で生食はもちろん煮物や漬物、切干しと幅広くご利用いただけます。

「耐病総太り」と同程度にス入りの遅い「三太郎」もおすすめです。株間を変えることで、根長を調節することも可能なので出荷の幅が広がります。肉質は緻密でやわらかく、調理の味がしみ込みやすいので特に煮物におすすめです。



↑肉質が緻密で生食から煮物、漬物など幅広い用途で利用できる「耐病総太り」。ほかの品種にはない甘さがある。



女性に おすすめの品種

秋から春までまける「三太郎」がおすすめです。一般的なダイコンよりも根長が短いため収穫しやすく、大きさも手ごろで料理にも扱いやすい品種です。また、比較的耕土の浅い場所での栽培が可能のため、畑を深く耕すことが大変な女性にとって最適です。



↑株間を調整することで、好みのサイズで収穫できる「三太郎」は場所を選ばず、プランターなどでも栽培できる。



→ 苦みの少ない葉なので、間引き菜を葉付きで食べるのもおすすめ!



私の好物

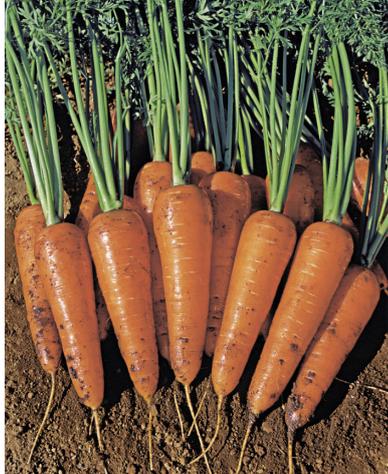
～ダイコンのうま味を、 すりおろして 手軽に楽しむ～

鍋料理にダイコンを使うと煮えるまで時間がかかってしまうのが難点です。そこで我が家ではダイコンをすりおろし、みぞれ汁にしています。鍋いっぱいダイコンの風味とうまみが広がり、体も温まるのでおすすめです。寒くなる秋冬に「秋の翼」や「耐病総太り」でお試ください。

栽培Q&A

Q ダイコンの表面に茶色い小斑点がたくさんあり出荷ができません。

A キスジノミハムシの幼虫による被害痕だと思われます。畝を準備する時に土壌殺虫剤を混和すると効果的です。ナズナなどのアブラナ科雑草にも寄生するので、畑と周辺の除草を行うとよいでしょう。



↑有機質の少ない畑は肌のキメや色のりが低下するので、排水性と保水性が共によい土づくりを目指す。

排水・保水のよい土づくり
ニンジンの根は直根性で繊細なため過湿や乾燥に弱く、栽培には耕土が深く肥沃で排水・保水性のよい畑が適しています。排水の悪い畑では、根が短くなったりまた根が多く発生したり、根部病害が増加します。また、有機質の乏しいやせ



われらタキイリーダー
野菜作り応援団!!

ニンジン

ニンジン耕種基準

畝幅 (cm)	60~90
条数 (条)	2~4
株間 (cm)	8~12

ニンジン担当

かど 門田 のぶ ひこ 伸彦



※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

発芽をそろえる
そろいのよいニンジン収穫するには、発芽をそろえることが最も重要です。夏まき栽培では、土壤水分と覆土の深さがポイントになります。ニンジンの種子は吸水力が弱く、発芽に多くの水分を必要とします。また、発芽力が弱いので覆土の厚さには注意が必要です。整地時に畑が乾燥している場合、あらかじめ畑に灌水し適湿な状態で整地を行います。播種

発芽をそろえる
ニンジンは生育期間が長い作物のため生育後半の肥切れに注意します。栽培に必要な施肥量はチッソ成分で10㎡当たり150gが標準です。元肥は緩効性肥料を主体として3分の2を施用し、残りは本葉6枚目以降に速効性肥料で追肥しましょう。

発芽をそろえる
ニンジンは酸性土壌 (pH 5.3以下) で生育不良となるため、苦土石灰を10㎡当たり1kg程度を目安に施し、土壌酸度をpH 6.0~6.6に調整します。石灰投入時に深さ20cm以上に深耕し、土壌に空気を入れておく素直な根の伸長が促されます。

た畑では、肌のキメが粗くなったり、色のりや収量が低下したりします。排水のよい畑を選定し、堆肥を施用して有機質に富んだ通気性のよい土づくりを行いましょう。なお、地下水位の高い畑では、水が溜まらないよう明渠を設置し、畝を高めにするなど排水に注意します。

栽培Q&A

Q 秋の長雨でニンジンの葉が黄化しました。対策は？

A 肥大時期のニンジンは湿害に弱く、根からの養分の吸収が妨げられていることが大きな要因となります。まず畝間の通路を中耕して、土壤の通気性を改善し速効性肥料をチッソ成分で10㎡当たり20~40g程度追肥します。さらに、吸収しやすい亜リン酸を含んだ葉面散布剤の「ホストマト」を1,000~2,000倍で葉面散布し、根の発育を促進させ、生育を回復させます。

トマトだけでなくニンジンにも使える「ホストマト」。↑



↑吸水力の弱いニンジンは発芽に多くの水分を必要とするので、適切な水分管理を心掛け発芽をそろえる。

後は十分に灌水し、表面が乾くようであれば適宜灌水して、発芽まで適湿を保つように注意します。

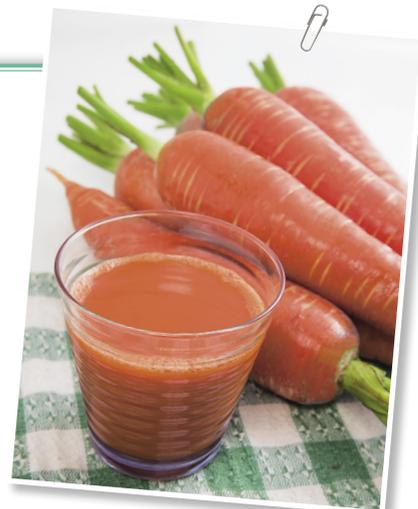
私の好物

~健康が気になる中年世代にもオススメ!
「京くれない」の健康ジュース~

「京くれない」は金時ニンジンと五寸ニンジンの交配からできた、両方の長所を併せもつ夏まき専用の赤色ニンジンです。熟期は晩生で冬どり栽培に適します。

鮮やかな赤色で料理にはえることや、肉質が緻密でニンジン臭が少なく、甘みに富んでいるため幅広い用途に適しており、大変便利な品種です。しかも、金時ニンジンのリコピンと五寸ニンジンのカロテンの両方をバランスよく含むことで機能性にすぐれ、中年世代の私は自家用ニンジンとして「京くれない」を愛用しています。なお、私のおすすめはジュースで簡単にできる「赤ニンジンジュース」です。ぜひ一度ご堪能ください。

→ 機能性にすぐれた「京くれない」をジュースにして、手軽に機能性成分を取り入れよう。





カーター夏・秋の
おすすめ品種

ニンジン^①は代表的な緑黄色野菜で、約2分の1本で1日に必要なビタミンAがとれる栄養価の高い家庭の常備菜です。また、ニンジンに含まれるビタミンAには、パソコンの使いすぎで目が疲れている現代人に多いドライアイを防ぐ役割もあります。



直売所出荷を 目指すなら

ニンジンは料理の彩りや栄養価の面から直売所には欠かせない品目の一つです。今回は直売所向けとして、根色が濃くて陳列棚で見ばえにすぐれる品種「**Dr.カロテン5**」^{ドクターファイブ}「**恋ごころ**」^{こいごころ}「**グランプリ**」をご紹介します。夏まき栽培で各品種の熟期の差を利用した色よしニンジンのリレー出荷をご提案いたします！

●11～12月どり：「Dr. カロテン5」

肥大の早い早生種で年内どり栽培に適します。尻づまりのよい形状で表皮から内部まで均一な鮮濃紅色です。みずみずしい食感で臭みが少なく、サラダやジュースに最適の品種です。吸肥力が強く、草勢が旺盛で作りやすいので、減農薬や減肥栽培に適します。春のトウ立ちが遅いのので、春まき栽培も可能です。



↑草勢が強く作りやすい「Dr.カロテン5」は、内部まで色鮮やかな濃紅色で、特有の臭みも少なくみずみずしい。

●12月～1月どり：「恋ごころ」

尻づまりのよい中早生種で冬どり栽培に適します。適期栽培では100日程度で尻の先までよくつまった肩張りのおとなしい円筒形状となります。根色が濃く、甘みがありニンジン臭が少ない良食味で、直売所出荷に最適な品種です。「Dr.カロテン5」と同様に草勢が旺盛で減農薬や減肥栽培に適し、春まき栽培も可能です。



↑円筒形状で尻づまりもよく見ばえのいい「恋ごころ」は直売所出荷に最適の品種。

●1～2月どり：「グランプリ」

収量性にすぐれる中生種で冬どり栽培に適します。黒田系の大型F1品種で、夏の暑さにも強く大変作りやすく、株間を広げて8～12cmの疎植にすると1本300～500gのジャンボサイズが収穫できます。根色が濃く、みずみずしい肉質のためジュースから惣菜まで幅広い用途に向きます。収量性にすぐれるため、直売所出荷だけではなく学校給食などの加工業務用としても最適です。



→ サラダや惣菜、ジュースから幅広い場面で活用できる「グランプリ」は、加工業務に最適の品種。(写真：ニンジンと鶏の照り焼き)

資材の活用

～土づくりに 菌体特殊肥料

「バイオダルマ」～

ニンジンの根は繊細なため、肥沃で有機質が多く、団粒構造が発達して空気を多く含んだ土壌が栽培に適します。長年作物を作り続けてやせてしまった畑や、降雨後にかたくしまりやすい畑には有機質の投入が必要です。「**バイオダルマ**」は良質の有機質を含み、そして「**ダルマ菌**」が土壌中の未熟有機物を腐植化します。ニンジンの土づくりに「**バイオダルマ**」を利用してみたいはいかがでしょうか？目安は10㎡当たり2.25～3kg程度です。



↑古い土の若返りや連作障害の緩和が期待できる「バイオダルマ」は、完熟堆肥と肥料分を併せもった菌体特殊肥料。

～乾燥防止や

ゲリラ豪雨対策に

「芽出たいシート」～

ニンジンの種子は吸水力が弱いいため発芽に多くの水分を必要とします。しかし、夏まき栽培は高温時期の播種となるので地表面が乾燥しやすく、発芽までの水管理がととても大変です。また、近年はゲリラ豪雨と呼ばれる強烈な雨により地表面が流されたり、かたくなって発芽できなくなったりすることがあります。播種後に「**芽出たいシート**」のような被覆資材を利用することで、乾燥防止やゲリラ豪雨対策を行い、均一な発芽を目指しましょう。



↑高温時期の播種には被覆資材「芽出たいシート」などを使い、乾燥防止や雨対策を行い、発芽をそろえる。(播種から約2週間後、9月上旬の様子)

われらタキイブリーダー
花作り応援団!!

金魚草



金魚草担当
伊豆直幸

直売所向けの栽培品目として、金魚草はぜひおすすりしたい品目です。その理由は花色が幅広く、栽培が容易で管理の手間があまりかからない点です。

花色は、やさしいパステル調からハッキリした濃い色目までバリエーションが豊富で、単色での出荷はもちろん、秋にはシックな色を組み合わせたり、春は淡い色をまとめることで季節感を演出できます。花型は、金魚に似たかわいらしい普通咲きと、花が開くタイプのベル咲き（ペンステムン咲き）があり、仏花だけでなくアレレンジにも重宝されます。特にベル咲きは、金魚草の中では大輪でひらひらとしたかわいらしい花型が、アレレンジメントの中で立体感や鮮やかさを出す花材として人気があります。

さらに、ビニールハウスなどを利用した施設栽培では、早生系切り花品種の利用で秋から翌春まで長期間開花させるこ

とができます。1株から数回採花することのできるので連続出荷が可能です。直売用としても魅力ある金魚草を、ぜひ作ってみてはいかがでしょうか。

直売所にはこの品種！

金魚草「カリヨン」「ツイニー」「パレット」シリーズの品種特性

1 「カリヨン」シリーズは、花径5〜6cmの大輪ベル咲きの早生品種です。分枝が旺盛で採花本数も多く、また低温開花性にすぐれ、暖房費の削減にも効果があります。冬季の栽培では最低5℃程度の温度でも開花させることができます。花色は10色と幅広いラインアップで、主要色の「ホワイトインフ」「ピンクインフ」「ライトピンク」「イエローインフ」「クリムイエロー」に加え、パステル調の「アプリコット」「サーモン」や、濃い色目の「ハーブル」「アンティーク」「ベルベット」で、秋のシックな雰囲気から春のさわやかさまで、幅広く演出することができます。

2 鉢物販売におすすりめなのが、草丈30〜40cmの矮性種「ツイニー」シリーズです。珍しい半八重〜八重の花型が人目を引きます。花色は7色で、人気のある花色がそろっています。矮性種としてはやや高めの草姿で、寄せ植えや花壇で高さを出す演出に重宝します。咲き終わった花を早めに穂ごと切りとることで、長期間開花を楽しむことができます。

3 草丈15〜20cmのコンパクトな矮性種で、全14色もの豊富な花色の「パレット」シリーズは、普通咲きで開花が早く、播種から2カ月半程度でポット出荷が可能です。主枝の開花に続き、側枝の開花も早いので観賞期間が長く、寄せ植えなどにも最適です。

栽培クローズアップ

タネまき

秋から開花させるには、一般地や暖地では7月中旬〜8月下旬に播種します。高冷地では6月下旬〜7月下旬です。無理な早まきは1番花のポリューム低下を招くので、適期播種を心掛けましょう。タネが細かいので2〜3粒ずつ288

穴サイズのプラグトレイにまきます。好

光性種子なので覆土は必要ありません。

発芽適温は15〜20℃ですが、播種期が高

温期となるので、遮光・換気などで涼し

くなるよう管理してください。一般地や

暖地において、年末以降の開花を狙う場

合は、暑い時期の育苗は避け9月に播種

します。

定植

播種後約4週間で本葉4枚程度の苗を

定植します。元肥は10㎡当たりチッソ・

リン酸・カリを成分量で各150g程度

を施し、定植間隔は株間15cmの6条程度

とします。



↑金魚草「カリヨン」シリーズ。

生育期の管理

金魚草はピンチ栽培が一般的です。定植後10日ほどしたら本葉を2節程度残し摘芯します。生育にともないフラワーネットを2〜3段張り、蕾が見え始めたら

灌水を抑え気味にして徒長を防ぎます。

特に「カリヨン」シリーズは、多灌水だとやや軟弱に仕上がってしまうので、灌

水は控えめにしましょう。

収穫とその後の管理

5〜6輪開花したところが採花の適期で

す。1番花の後、追肥をして2番花の発

生を促します。2番花以降の回転を早め

たい場合は、冬季8℃程度の加温を行う

とよいでしょう。暖房費を抑えたい場合

は、最低5℃から凍らない程度の温度で

管理します。

2番花以降は花茎の本数が増えるので、

込み合うようであれば常時枝数が4〜5

本になるよう枝整理を行います。冬季の

花茎は太くなりやすいので、灌水は少な

めに管理し茎の太さをなるべく1cm以下



↑「パレット」シリーズ、ポット出荷イメージ。



↑F1カリヨン ベルベット



↑F1カリヨン イエローインプ



↑F1カリヨン ピンクインプ



↑F1カリヨン ホワイトインプ



↑F1カリヨン アンティーク



↑F1カリヨン クリームイエロー

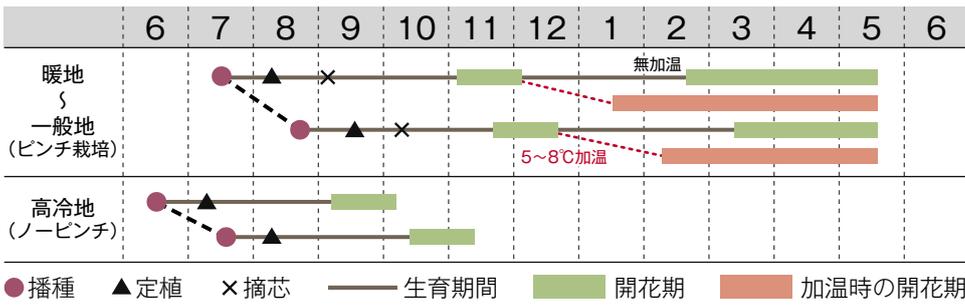


↑F1カリヨン サーモン



↑F1カリヨン アプリコット

「F1カリヨン系」の適作型



↑F1カリヨン ライトピンク



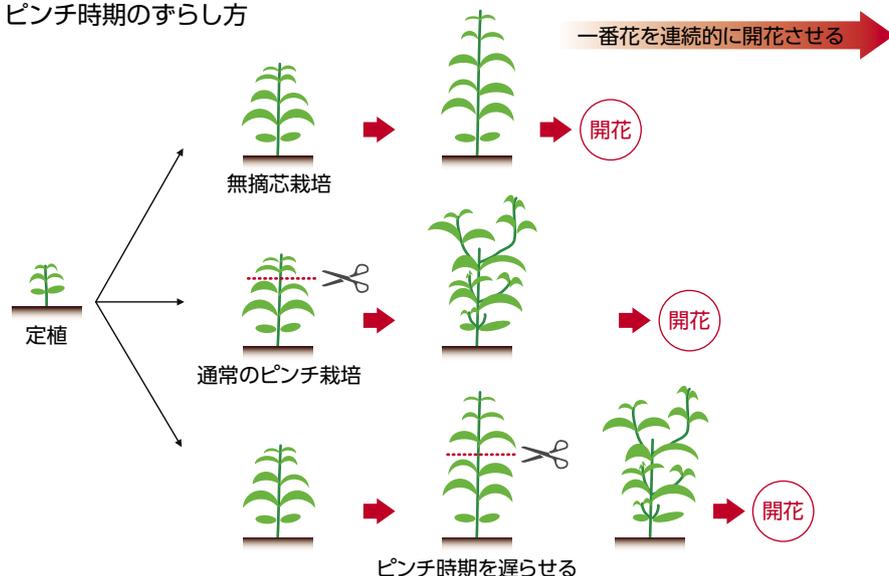
↑F1カリヨン パープル

〈出荷のヒント〉

～ピンチのタイミングをずらして連続開花させる～

出荷期前半は一齐に開花するので、出荷量がばらつくのが問題です。定植後のピンチの時期をずらし、順次開花するように調節することも可能です。

ピンチ時期のずらし方



主な病害虫の管理
ヨトウムシやアブラムシ、ダニが主に発生しやすい害虫です。栽培初期からよく観察し、見つけ次第殺虫剤で防除します。病害では、灰色かび病に注意が必要です。低温期のハウス内で湿度が高いと発生しやすいので換気や送風、枝整理を行い殺菌剤で防除します。